

## 今号のトピックス GIGA スクールのその後！ 見えてきた課題と問題

タブレット等が小中学校のすべての子ども達に届いて3年余りが経ちました。GIGA スクール構想はどこに向かうのか、GIGA スクール構想の”今”と”これから”を現役の中学校教員本間史祥氏にお願いしました。「壊れやすい端末、修理に出してもなかなか戻らず取り残される子ども」、一方「学校にとってICT活用はマスト項目に」、慣れつつあるが、悩む教師達。興味ある報告と課題の提起です。  
本間氏の寄稿とは別に首都圏での「学校貸与端末での盗撮」についても問題提起したいと思います。(編集部)

### GIGA スクールの”今”

～壊れた端末が平置き、  
修理で取り残される子どもたち～

日本やアメリカの多くの学校で配備された安価なクロームブックですが、アメリカの非営利団体の調査によると、3年前に購入した多くの端末が壊れて使えない状態となっていることがわかりました。その団体によると、「修理用品の欠如と修理費用の高さ」が問題だと指摘しています。  
(iPhone Media <https://iphone-mania.jp/news-533943/> 閲覧日：2023年6月11日)

本間の所属校(在籍生徒数450名程度)においても、週に1～3台程度は「Wi-Fiにつながらない」「電源が入らない」等のトラブルがあり、対応に追われます。また、月に1台は画面やキーボードの破損があります。軽微な故障に関しては、校内のICT担当チームで対応しますが、対応できない機種に関しては、教育委員会に報告します。

問題なのは、修理に出した際に、数ヶ月は端末が戻ってこない現状です。クラスに1人は端末を修理に出し、手元にない状態です。その子たちは端末を使った授業に参加できず、教師機を貸すなどで対応しています。

### GIGA スクールの”今”

～どんどん研究が進むICT教育！～

GIGA スクール構想により、1人1台端末が実現したことにより、ICT教育の研究推進が急速に進んでいます。また、GEG(Google Education Group)など、全国各地に支部を置く、様々な研究団体が設立されています。各教科や学活・道徳などの領域内容の研究授業において、ICT活用は学校教育にとってもはやマスト項目となりつつあります。

メリット・デメリットを含めた研究が推進されることは必要ことです。多くの教師の努力によって成り立っています。導入当初は「とりあえず使ってみよう」でしたが、現在は「効果的な活用はなにか、活用が効果的な場面は何か」に焦点を当てて研究されています。

しかし、教師間・学校間格差があるのは事実です。「〇〇先生のクラスではよく使われていて、先駆的な授業が行われている」という話もちらほらです。

### GIGA スクールの”これから” ～進むべき道に見える課題～

私たち現場教員が危惧している課題点はなんでしょうか？

普段、私が先生方と話している見えてきている課題点を整理します。

- (1) 次の端末の入れ替え費用は誰が負担？導入当初は補正予算がついたが、5年で入れ替えが必要だといわれているクロームブックの購入費用は誰が負担？保護者？自治体？国？  
現在でも明確な方針は出さず…リミットは再来年！？
- (2) AI型ドリルなどは本当に学力向上(この場合、わかりやすく学力=テストの点数)に寄与する？  
どんな使い方をすれば、結果につながるのか？まだ腑に落ちない先生方の思い…
- (3) チャットGPTの出現により、レポートや宿題はAI任せ？子どもたちの考える力がますます低下する？  
子どもが自ら考えたものなのか、AIが考えたものか…AI時代の授業とは何か？ (本間)

\* 首都圏の小中学校教師からの報告：学校貸与の端末での「盗撮」そしてオンラインチャットでの交換等々。起こるべき事実があるが、教師が忙しすぎて「貸与端末」の利用管理までできない実態もある。(大谷)